

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大西洋	ヨーロッパ大陸やアフリカ大陸の西側、南北アメリカ大陸の東側に広がる海洋であるため、大西洋が該当する。面積は太平洋に次いで世界で2番目に広い。
問2	答え 1 南緯35度、西経45度	地球上のある地点の真裏（対せき点）を求めるには、緯度と経度のそれぞれに法則があります。まず緯度は、北緯と南緯の名称を入れ替えるため、北緯35度は南緯35度となります。次に経度は、180度から元の経度を引いた数値（ $180 - 135 = 45$ ）を使い、東経と西経の名称を入れ替えるため、東経135度は西経45度となります。したがって、日本の対せき点は南半球かつ西経の地点に位置することになります。
問3	答え 1 資源Xが石炭、資源Yが天然ガス	アメリカ合衆国は、技術革新（シェール革命）によって天然ガスの生産量が急増し、ロシアを抜いて世界最大の生産国となりました。一方、石炭は中国が圧倒的な生産量を誇り、次いで電力需要が拡大しているインドが上位に位置しています。銅鉱石については、統計上チリが世界1位の生産国として知られています。
問4	答え 1 3月10日の午前1時	日本（UTC+9）とトルコ（UTC+3）の時差は6時間であり、日本の方が時刻が進んでいます。日本が3月10日の午前7時のとき、トルコの時刻を求めるには、日本の時刻から時差の6時間を引き算します。7時から6時間を引くと1時となり、日付は変わらず3月10日のままとなります。このため、トルコでは3月10日の午前1時を迎えていることとなります。
問5	答え 3 11時間30分	飛行時間を求めるには、出発時刻と到着時刻をどちらかの地点の時刻に統一して計算する必要があります。地点Bは地点Aより3時間遅れているため、地点Aを11時30分に出発した瞬間の地点Bの時刻は、3時間前の「8時30分」となります。この地点Bの出発時刻（8時30分）から、地点Bへの到着時刻（20時00分）までの経過時間を計算すると、11時間30分が導き出されます。
問6	答え 1 現在も地殻変動が活発な新期造山帯に属しており、火山の活動が多く地震が頻発に発生する。	ロッキー山脈やアンデス山脈は「環太平洋造山帯」に分類されます。この造山帯は中生代以降の比較的新しい時代に形成された「新期造山帯」であり、プレートの境界付近に位置するため、険しい山々が連なり、火山活動や地震が非常に活発であるという特徴があります。
問7	答え 1 等高線の間隔が狭いほど、急な傾斜の地形であることを示す	等高線は一定の高さごとに引かれているため、線と線の間隔が狭いということは、短い水平距離の間に高さが大きく変化していることを意味します。したがって、断面図を作成した際、等高線の密度が高い区間は急な斜面として描かれます。
問8	答え 1 南緯約40度、西経約40度に位置し、南アメリカ大陸の東方沖（大西洋上）にあたる	地球の正反対に位置する地点を導き出すには、緯度の南北を反転させ、経度は「 $180 - \text{元の経度}$ 」で東西を反転させます。日本付近の北緯40度は南緯40度になり、東経140度は「 $180 - 140$ 」で西経40度となります。この南緯40度・西経40度の付近は、南アメリカ大陸のアルゼンチンやブラジルの東方沖に該当します。
問9	答え 3 1km²	2万5千分の1の地形図では、縮尺の関係から図上の4cmが実距離の1km（100,000cm）に相当します。したがって、図上で4cm×4cmの正方形となっている範囲は、現実の世界では1km×1kmの広さとなり、その面積は1km ² と算出されます。地形図の読解において、4cmが1km（2万5千分の1の場合）や2cmが1km（5万分の1の場合）という基準を覚えておくことが計算がスムーズになります。